

1.事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 健康推進課長 村下 伯 電話番号 0852-22-5248

事務事業の名称	在宅医療の推進事業	
目的	(1) 対象	医師、歯科衛生士及び歯科技工士
	(2) 意図	緩和ケアに精通した医療従事者の養成、歯科医療に従事する歯科衛生士及び歯科技工士の確保を図る。
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 在宅歯科医療連携室の設置 在宅歯科医療に関する研修会の開催 在宅歯科医療拠点及び在宅訪問歯科診療研修拠点の整備 在宅歯科医療関係者の連絡会及び協議会の開催 多職種連携のためのマニュアル作成作業部会の開催 開業医等在宅に関わる医療従事者向けの緩和ケア研修会の開催 	

2.成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 往診・訪問診療を行っている歯科医療機関数	目標値		184.0	184.0	184.0	184.0	箇所
		取組目標値						
	式・定義 往診・訪問診療を行っている歯科医療機関数	実績値	184.0					%
		達成率	-	-	-	-	-	
2	指標名 緩和ケアの基本的技術を習得した医師数	目標値		1,050.0	1,300.0	1,350.0	1,400.0	人
		取組目標値						
	式・定義 緩和ケアの基本的技術を習得した医師数	実績値	860.0					%
		達成率	-	-	-	-	-	

3.事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	29,250	5,848
うち一般財源 (千円)	0	0

4.改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	①順調に進んでおり課題がないため検討していない
---------------------	-------------------------

5.評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 在宅歯科医療連携室を委託で設置し、相談業務や研修会を実施した。
- 歯科衛生士及び歯科技工士に対して在宅歯科医療に必要な研修会を開催した。
- 拠点整備に対する支援を行った。
- 島根県医師会主催の緩和ケア研修会を実施し、開業医に対して緩和ケア研修会の受講を促した。

6.成果があったこと（改善されたこと）

- 訪問歯科診療推進のために、各地区での関係者による連絡会議や、県在宅往診連携対策会議を開催し、関係者間での連携を促進した。
- 在宅歯科医療拠点として設備整備に対する支援を行い、診療体制の充実をすることができた。
- 緩和ケア研修会を修了した医療従事者が増え、入院から在宅まで切れ目のない緩和ケア提供体制の構築に寄与した。

7.まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- 訪問歯科診療の実施状況が圏域によって差がみられる。
- 在宅において緩和ケアが十分進んでいるとは言えない。

②困っている状況が発生している「原因」

- 歯科医療従事者を含めて在宅医療に携わる関係者に、在宅療養者に対する歯科診療（口腔ケア）の知識が、まだ不足している。
- 在宅医療を担う他職種との連携が、まだ十分ではない。
- 開業医等在宅医療に関わる医療従事者の緩和ケアに係る知識が十分ではない。

③原因を解消するための「課題」

- 歯科医療従事者だけでなく在宅医療を担う他職種を含めた関係者に、地域での在宅歯科医療の重要性についての認識を高めていただくための啓発が課題。
- 関係者に、緩和ケアについて正しく理解していただき、いかに実践していただくかが課題。

8.今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 研修会や連絡会議などを継続実施することにより、それぞれの地域での在宅歯科医療の知識を高め、課題などを関係者間で共有し連携を促進していく。
- 開業医等の参加しやすさを重視した緩和ケア研修会を引き続き実施し、より一層の緩和ケアの推進を図る。

課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）